

## 20人超が集中講義に 日米文化比較で米ペンシルベニア州立大のエイブル先生

来日中の米国の協定校ペンシルベニア州立大 (PSU) のエイブル先生が人文学部を訪れ、集中講義を30日に実施、土曜日にもかかわらず20人を超える学生が参加した。国際交流プログラムの講義の一環で、PSU 関連のイベントとしては5月中旬の双方向型の交流に続く第2弾。



「映画スター・ウォーズのモチーフがチャンバラとは興味深い分析」、「なぜ紙芝居は米国で流

行しなかったのか」などの感想や質問が飛び交っていた。

集中講義のテーマは、①メディアと社会②発禁本の世界③日米の映画。米大学の講義では一般的な、教える側が学生に質問を投げかけ、学生がそれに答える形で、スタートした。



エイブル先生は、「What is media?」と冒頭から参加する学生に対し英語で質問を問い掛け、はじめのうちは戸惑っていた学生先も、間もなく慣れて英語で答える形で講義を展開。



メディア論で知られているカナダのマクルーハンの「メディアはメッセージである」などの理論を

説明、初版本では、誤植で「The media is the massage」が、そのまま流布したなどの興味深いエピソードを紹介した。

エイブル先生は、Old media をベースに New media が発展する過程を考察。その題材として、日本独特の紙芝居や、高度成長期にヒットした少女向けの番組の「月光仮面」が取り上げられた。



「発禁本の世界」では、なぜ、発刊が禁止されるのか時代背景などを分析、米国のポピュラーソングを例に、なぜ放送が禁止されるのかの文化的な背景について持論を展開した。

最後の日米の映画の比較では、「スター・ウォーズ」や黒沢明監督「7人の侍」などを例に、類似点を紹介、学生らは、日米の映画の意外な共通性を知り、驚いていた。講義の様子は、ビデオ撮影しており、編集して学部のホームページに、後日アップされる予定。

(終)

